外来診察 予約制

脳と心のドック

外来診察のひとつとして鑑別診断を行えます。

保険適用

認知症・うつ病の鑑別診断

アルツハイマー型認知症・血管性認知症・うつ病・双極性障害・統合失調症など

物忘れの原因は、けして認知症のみとは限りません。

●最近、ものをよく忘れるようになり「私は呆けているのではないか」と感じる高齢者ご本人やご家族の方。それは認知症（呆け）かも知れませんが、実はうつ病でも似た状態が現れます。

●うつ病などは殆どの場合お薬で改善できます。その鑑別を行うのがこのドックの主たる目的です。当院では同様の症例を数多く経験しております。

078-942-1021 明石土山病院「脳と心のドック」受付まで
平日 午前9:00 ～午後4:00（土曜11:30まで）

診察費用 ※検査料・診察費を含む 初診の方の窓口負担金の例

1割負担 75歳以降
約 2,450 円

2割負担 70～74歳
約 4,900 円

3割負担 6～69歳
約 7,300 円

※窓口での自己負担額は所得など条件により異なります。ご自身の医療保険の負担枠をご確認下さい。

3種類の検査

光トポグラフィ検査 ※この検査での費用は頂きません

脳の働きを目で見える形でグラフ化し、うつ病や認知症等に現れる特有の波形を見ます。

測定する装置のついた帽子を被って行動した際の、脳内の血流を測定します。髪や頭皮に手を加えたり、また測定中に痛みを伴うような検査ではございません。

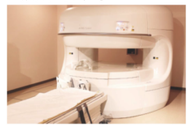
光トポグラフィ装置 ▶

MRI検査

磁気を利用して頭部の断面図を撮影し、脳の腫瘍・萎縮などを画像から確認します。

エックス線を利用するレントゲンと異なり磁気を利用します。放射線被爆の心配もなく、より身体に負担も少なくて済みます。開放型ですので圧迫感がなく、閉鎖空間が苦手な方でも検査して頂けます。

MRI装置 ▶



心理テスト

臨床心理士によるテストを行います。

機器だけではなく、医師による診察時以外での検査にも実際に臨床心理士が向かい合います。

※外来診察時に検査を行いますが、検査の結果につきましては後日郵送にてご送付させて頂きます。
※診察の内容により、必要がないと医師が判断した検査は行わない場合もございます。

医療法人社団　正仁会

明石土山病院
介護老人保健施設希望
つちやま訪問看護ステーション
宿泊型自立訓練事業所 みどり寮
共同生活援助事業所 グループホーム ノア

〒974-0074
兵庫県明石市魚住町清水2744-30
TEL：078-942-1021
FAX：078-941-1573
E-Mail：info@athp.jp

基本理念

『人間愛に満ちた医療と愛情こもる看護・介護』

ホームページも是非ご覧下さい

● PC・タブレット・スマートフォン
http://www.athp.jp/

● 携帯用（i-mode）
http://www.athp.jp/i/

医療法人社団　正仁会　季刊誌みどり

MIDORI*

季刊誌 みどり

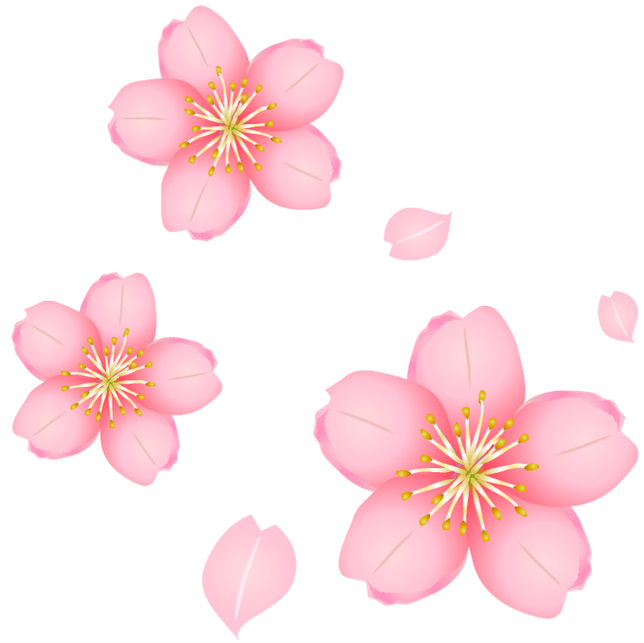
令和２年　春号

ご挨拶

理事長　太田　正幸

新型コロナウイルスが猛威を振るっており、この入職式に於いても必要最小限の人数で執り行うことと致しました。新型コロナウイルスに罹らないよう食事や運動、睡眠によって免疫力を高めて予防をするよう推奨されていますが、実際は新型ウイルスに対する免疫そのものを持つことはできません。高齢者及び若者も感染し、また欧米ではどんなに若くても亡くなったりしていますのでワクチンが出来るまで、この戦いは続いていると考えてよいと思います。

新入職員の皆さんに一言申し上げます。私達は精神障害者の方々をお世話する、治療する事を担っております。病気は好き好んでなっているわけではありません。患者さん達は皆さんと同等の人間です。必ず患者さんの尊厳をしっかり守り業務にあたって下さい。以上です。



『聴く』ということ

看護部長　新田　明美

精神科看護に携わるようになって早22年になります。患者様との日々のコミュニケーション、看護学生の実習指導など、多くの場面で「受容・傾聴・共感」このキーワードを耳にしてきました。「受容」とは、相手の悩み、苦しみ、不安などの心情をありのままに受け止めることです。「傾聴」とは、発言や振る舞いの根底にある相手の思いに耳を傾けることです。「共感」とは、その思いを相手の立場になって考え、感じ取り、理解することです。どれも簡単なようで実は非常に難しいことです。人の心を100%理解できることは絶対にないはずです。だからこそ常に相手の立場に立つことを意識し、ありのままを受け入れ、あきらめず寄り添い続けなければならないと私は思うのです。これが精神科看護の神髄だと感じています。

さて、この中の「傾聴」について改めて深く考えてみました。「聞く」と「聴く」の使い方の違いについて意識したことはありますか？「聞く」は、音として会話を聞く、情報として耳に入れるなどの場合に使われます。そして、もうひとつの「聴く」は、耳を傾け、相手の気持ちや心情を理解しようと心から共感する姿勢で相手の言葉を聴く、という場合に使われます。「聴く」という漢字の成り立ちを調べてみると、耳と目と心をプラスすると「聴く」という漢字になり、心の目で見て感じて聴くこと、という意味合いと、もう一つの考え方として、耳に十四の心という見方があり、耳だけでなく十四の心で聴くようにしようという考え方もあるようです。十四の心とは、①美しい心、②新しい心、③広い心、④楽しい心、⑤嬉しい心、⑥面白い心、⑦微笑みの心、⑧素晴らしい心、⑨悲しい心、⑩苦しい心、⑪愛しい心、⑫労わる心、⑬憂う心、⑭感謝する心、だそうです。これらの心を十分に使ってこそ「聴く」ということが成立するのだということです。今回初めてこういう考え方があることを知り、「聴く」ということが本当に難しいことだと感じたのと同時に、今までよりももっと違う心で「聴く」ことができるのではないかという自分への期待のようなものも感じました。

そしてもう一つ、「聴く」ために大切なことは、ただただ聴くことに徹する、ということです。相手の話を聴いている途中で、つい励ますつもりで自分が乗り越えられた時のことなど、自分の意見を話してしまい、いつの間にか相手に話を聞かせる立場に変わってしまっていた、というような経験はないでしょうか。相手は答えを求めているのではなく、自分の思いをただただ聴いてくれる、その時間、その人を求めているのだと思います。

WRAP（元気回復行動プラン）の研修会の中で、「もっとも価値のあるサポートは『聴くこと』である」と教わりました。人は自ずと人と関わり、相互作用の中で生きていかなければなりません。多忙な毎日を過ごされている方が多いと思います。そんな時ほど、心と目で相手をしっかりととらえ、相手の心情を理解しようとただ耳を傾ける、『聴くこと』を意識して、日々の生活の中に取り入れてみるべきではないでしょうか。あなたのその『聴くこと』で、心の調整が上手くできて一歩前へ進める人がいるかもしれませんね。ぜひ、看護・介護の場面にも意識的に取り入れ、患者様に寄り添いながら、日々勤めていただけることを切に願います。

レク活動委員会・活動報告

令和元年11月26日に『土山祭り』が開催されました。今年も例年のように“古着コーナー”“喫茶コーナー”“ゲームコーナー”の3つのコーナーにたくさんの患者様や外来の方々にお越し頂くことができました。ありがとうございました。

秋の恒例行事になったこの『土山祭り』の経緯を少し、お伝えしたいと思います。平成3年に太田正気記念館（体育館）ができたことをきっかけに、「バザーをしてみては」、という提案がレク委員会の中であがりました。行事の名前は、職員全員に募集し『ふれあいバザー』と決まりました。当時「服が欲しい」と言われる患者様が多く“古着コーナー”を、「食べることならば参加できる方も増えるのでは」と“喫茶コーナー”を等、レク委員会で何度も話し合いをもちました。

その後、この『ふれあいバザー』は毎年4～5月の恒例行事となりました。そして回を重ねるうちに、売れ残った秋冬物の服が増え、患者様からは、「秋に冬物の衣類が欲しい」という声を頂き、秋に『古着市』を始めることとなりました。この『古着市』が形を変え“喫茶コーナー”や“ゲームコーナー”のある『土山祭』となりました。今年から名前が『土山祭り』となりました。

『ふれあいバザー』『土山祭り』共に、職員の皆様の協力あっての行事となっています。

今後とも、レク活動委員会へのご理解、ご協力を宜しくお願い致します。

（診療部　作業療法課　浅沼　由紀）

看護部　研修会報告

＜医薬品安全及び医療安全研修会＞

２０１９年１２月２５日医薬品安全及び医療安全研修会が行われました。
安全管理においては、予防や予見が出来ることがとても大切です。多くの経験を持つ職員からこの状態であるならば、こうなるかもしれない。だからこの方法がよいのではないか。など、的確なアドバイスがとても予防に大変役立っています。

ヒヤリハットの情報を共有して患者様安全安心に療養できるよう職員一同尽力して参りたいと思います。